

# 河畔林ヤナギの菌床栽培への利用

利用部 微生物グループ 原田 陽

## 研究の背景・目的

シイタケ菌床栽培に早生樹ヤナギのおが粉を活用することで、生産性や嗜好性が向上することを見出し、道内の実生産施設で利用されるようになりました<sup>1)</sup>。一方、ヤナギの供給体制が未整備であることから、菌床栽培への利用拡大に至っていません。利用拡大に向けて、河畔林ヤナギの有効利用研究会（北海道開発局主催）で河畔林伐採で出材するヤナギの有効活用が期待されています。本発表では、研究会の活動として、河畔林で伐採したヤナギの菌床栽培への利用に関する取組みを紹介します。

1) 原田ら：早生樹ヤナギ類のきのこ菌床栽培への活用，北海道の林木育種，63（1），23-27（2020）

## 研究の内容・成果

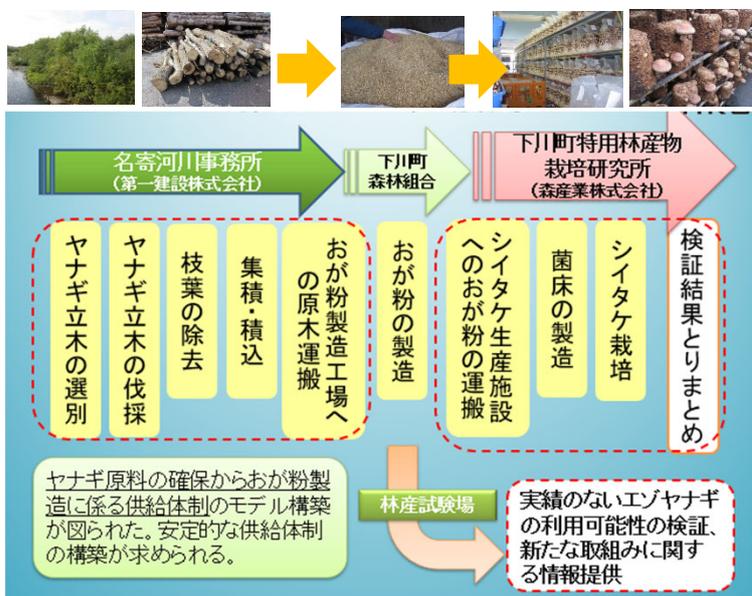


図1 研究会での取組み内容

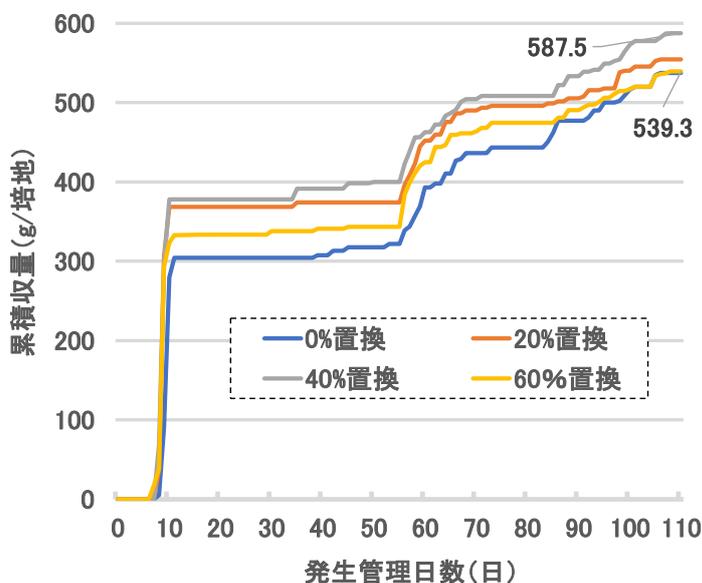


図2 エゾヤナギで置換した菌床の累積収量  
慣行菌床のミズナラとシラカンバの混合おが粉を  
エゾヤナギのおが粉に0~60%置換した。

- 名寄川流域でのヤナギ供給・利用モデルとして、名寄川河畔林のヤナギおが粉を用いた菌床製造・シイタケ菌床栽培の検証を行いました（図1）。その結果、初回発生、浸水1回後の2回目の発生まではヤナギ混合菌床で発生収量が高い傾向、前半集中型の特性を示しました。
- これまで実績のないエゾヤナギのおが粉を用いた菌床栽培試験では、慣行菌床のおが粉を40%置換した場合に、前半から発生収量が高まり（図2）、平均収量が400gおよび500gに達する日数が0%置換よりもそれぞれ14日、28日短縮した（図3）ことから、生産効率が高まる有用な結果が得られました。

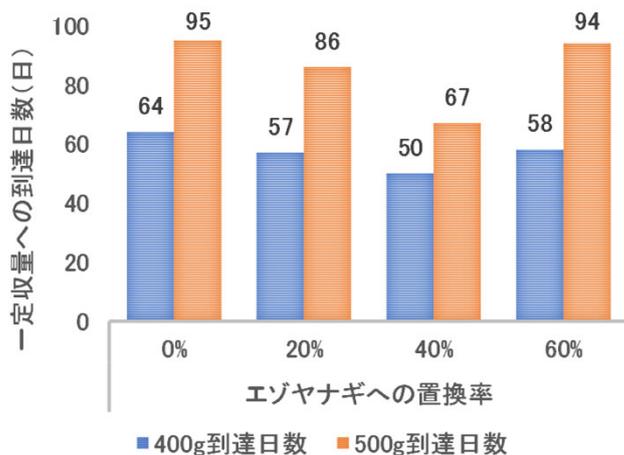


図3 エゾヤナギ混合菌床における一定収量  
に到達する日数の比較 図2参照。

## 今後の展開

検証河畔林で優占種だったヤナギ3樹種（オノエヤナギ，エゾノキヌヤナギ，エゾヤナギ）について、菌床栽培への利用，地域で連携した取組みが可能であること，実績のなかったエゾヤナギの有用性を実証しました。今後は、「木材バンク」（北海道開発局，北海道）の情報を活用しながら，河畔林ヤナギを菌床に利用することで，河畔林で伐採した樹木の活用が進むことが期待されます。